

T20b **南銀極領域における銀河団サーベイ**

川崎 渉、嶋作 一大、土居 守、岡村 定矩 (東大理天文)

銀河団の統計的研究を行なう際には、多く既存の銀河団カタログが用いられる。しかし、Abell, Zwicky 等多くの従来のカタログは眼で探して見つけたものから成り立っている。このようなカタログでは、特に遠方銀河団や poor な銀河団について、天球上での銀河の投影効果によって、実際には銀河団でないものがかなり含まれている可能性が指摘されている (Lucey 1983)。また、あるはずの銀河団の見落としや、不均一さも問題となってくる。銀河団の諸性質を統計的に調べるためには、客観的な新しい方法に基づいて作られたサンプルを持つことが必要である。

春季年会において、我々は、銀河団を客観的な方法で自動的に検出するアルゴリズムの開発の報告を行なった (Kawasaki et al.1996, to be submitted)。この方法は銀河団 (候補) を検出するだけでなく、その赤方偏移及び richness も推定することが可能である。昨年 10 月、我々はチリ・ラスカンパナス天文台の 1.0m 望遠鏡にモザイク CCD カメラ 2 号機を取り付け、平均シーイングサイズが 1'' を切る良好な条件のもとで、南銀極領域の約 4.9 平方度に及ぶ領域の撮像観測を行なった。今回は、このデータを用いて南銀極領域における銀河団のサーベイを行なう。結果については年会時に報告したい。